

登録コード	EKE11900	開講年度	2026				
授業科目	学校における体験活動				担当教員	瀧 直也 他	
英文授業名	Experience activities in classroom				副担当	谷内 祐樹	
単位数	2	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	履修学年	
講義室			授業形態	演習	備考		
信大コンピテンシー	該当						
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】				【授業の達成目標】		
	2 6 E Aカリ, 2 5 E Aカリ, 2 4 E Aカリ						
	教育の専門職としての学識・技能				体験活動について、現代的な意義や必要性、学習指導要領における取り扱いについて理解を深めるとともに、体験活動の実践事例や調査研究等から成果と課題を明らかにする。		
	教育現場の諸課題の背景にある関係構造に気づく視点				特色ある実践校への現地視察を通して、学校における体験活動の実施方法を学ぶ。		
(2)授業の概要	体験活動について、現代的な意義や必要性、学習指導要領における取り扱いについて理解を深めるとともに、体験活動の実践事例や調査研究等から成果と課題を明らかにする。 また、特色ある実践校への現地視察を通して、学校における体験活動の実施方法を学ぶ。 小学校（幼稚園）から高校までの発達段階に応じた、効果的な体験活動実施のための留意点を整理し、協力校や所属校の児童・生徒の状況や教育目標に対応した体験活動の試案を作成し、運営や評価についても理解する。						
(3)授業計画	第 1回：授業ガイダンス及び体験活動の教育的意義 第 2回：体験活動の教育的効果 第 3回：自然体験活動のマネジメント 第 4回：体験活動の実践事例の参観 第 5回：信州の総合学習の理念と背景 第 6回：信州の総合学習の理念と背景 第 7回：総合学習の実践事例の参観 第 8回：自然体験活動の安全管理 第 9回：総合学習の実践事例の参観 第10回：信州型自然保育・森のようちえんの取組 第11回：体験活動の実践事例の参観 第12回：総合学習の実践事例の参観 第13回：各自の対象に応じた教育課題の設定と体験活動の試案作成 第14回：成果の発表と評価、運営についてのまとめ 最終レポート						
(4)成績評価の方法	・最終レポート（80％）、各回の議論・発表内容（20％） ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀, 89-80％ 優, 79-70％ 良, 69-60％ 可, 59％以下 不可						
(5)履修上の注意	内容によって、授業日程や開催場所を変更することがある。 履修に当たっては、自らの研究課題を考慮し、指導教員と相談の上で決定すること。						
(6)質問,相談への対応および連絡先	メールにて受付ける。瀧 直也（taki@shinshu-u.ac.jp）						
(7)成績評価の基準	レポートでは、問題の設定が適切であり、その問題の背景を説明できており、その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。 から の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」と評価する。						
(8)事前事後学習の内容について	【事前学習】質疑応答・討論のための資料を準備すること。 【事後学習】質疑応答・討議を通じて生まれた課題について、事後に各自で調べて再検討すること。						
【教科書】	適宜、資料を配布する。						
【参考書】	・学習指導要領 ・野外教育入門シリーズ第1巻「野外教育の理論と実践」, 星野敏男・金子和正監修, 自然体験活動研究会編, 杏林書院						